

リンゴ「長穂接ぎ木」による品種更新

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—リンゴ—栽培

2 担当者名

渡邊善仁、遠藤敦史、安達義輝、南春菜、増子俊明

3 要旨

リンゴの品種更新として、新植や改植、接ぎ木による品種更新があるが、新植、改植、従来の高接ぎによる品種更新では、収穫量がなくなる期間がある。そこで、1年枝の長い穂木を用いた長穂接ぎ木による品種更新を2016年に実施した結果、穂木由来の側枝の生育量が少ないことから、更新前の中間台部の収量を維持しつつ、品種更新を行うことができると推察された。

- (1) 長穂接ぎ木による穂木由来の側枝部の生育量は、高接ぎと比較して、約1/2程度になり、総頂芽数、花芽数ともに少ない結果であった(表1)。
- (2) 長穂接ぎ木の中間台部を含む樹当たりの累積収量は高接ぎと比較して約3倍であり、更新4年目の樹当たりの収量に占める割合は、長穂接ぎ木由来の側枝に結実した果実が約20%であることから、品種更新までは、5年以上かかることが推察される(図1)。
- (3) 接ぎ木方法による果実品質の差は見られなかった(表2)。

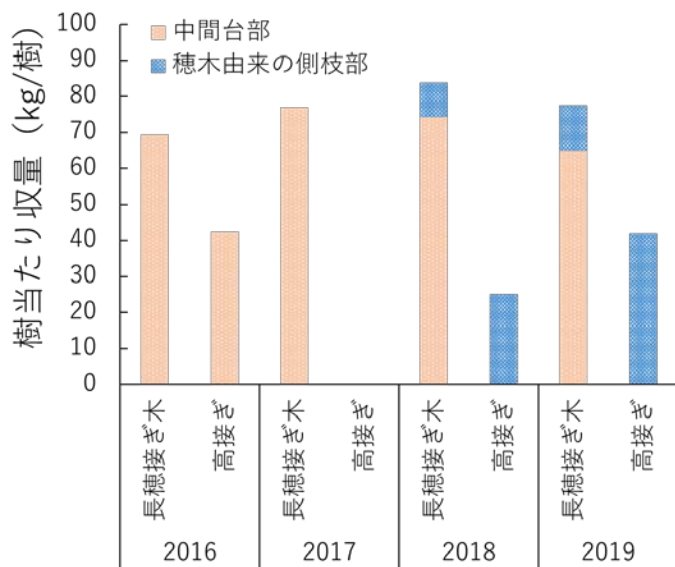


図1 収量の推移

表1 接ぎ木由来の側枝の生育の推移

年	区	総延長枝 (mm)	新梢伸長量 (mm)	基部径(mm)	
				縦	横
2017	長穂接ぎ木	600.3	166.7	-	-
	高接ぎ	1477.7	376.4	-	-
2018	長穂接ぎ木	767.0	210.8	14.1	13.5
	高接ぎ	1854.1	467.4	34.3	31.4
2019	長穂接ぎ木	970.2	165.0	18.8	18.3
	高接ぎ	2191.5	341.9	41.7	37.9

表2 果実品質の比較(2019年)

区	着色度	色均一性	糖度	酸度	蜜入り 指数
長穂接ぎ木	213	940	16.6	0.53	1.6
高接ぎ	212	939	16.6	0.52	1.8
有意差	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

注) t検定により、n.s.は有意差なし

注) シンヤ精機(株) カラーソーター及び内部品質センサで測定した

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成28年度～令和元年度
- (2) 研究課題名 果樹の省力・高品質生産技術体系の確立〔革新的技術開発・緊急展開事業(経営体強化プロジェクト)〕各地域に適したリンゴ早期成園化技術の開発と経営体における実証(平成28年～令和元年)

5 主な参考文献・資料

- (1) 農業技術体系 果樹編 第1-2巻 リンゴ「新梢長穂接ぎ法」